

令和4年度 江戸川区立小岩第四中学校 学校関係者評価 中間評価用報告書

<p>学校教育目標</p> <p>形成、心身共に健やかに、心ゆたかに育つ心豊かな人間の育成 自主、自覚、責任、誠意、自らを磨き、個性を伸ばす 品性 礼儀正しく、進んで学ぶ意欲がみちみちた人間としての内面の美しさ 情熱 明るく、果敢と責任感をもつ 実学 思いやりをもつてすべての人に優しく貢献する</p>	<p>目指す学校像 目指す児童像 目指す教師像</p>	<p>成長し、心身共に健やかに育つ心豊かな人間の育成 自主、自覚、責任、誠意、自らを磨き、個性を伸ばす 品性 礼儀正しく、進んで学ぶ意欲がみちみちた人間としての内面の美しさ 情熱 明るく、果敢と責任感をもつ 実学 思いやりをもつてすべての人に優しく貢献する</p>
---	---	--

<p>前年度までの学校経営上の成果と課題</p>	<p><成果>図書館の整備。1人1台端末を活用した教育の推進。新聞の閲覧者増加。いじめ撲滅宣言により、いじめに対する意識向上。 <課題>新学習指導要領に沿った授業についての研修、ICTの有効的な活用。家庭学習の習慣化。不登校生徒対策。</p>
--------------------------	--

教育委員会重点課題	取組項目	評価の視点	具体的な取組	数値目標	自己評価		学校関係者評価		年度末に向けた改善策	
					取組	成果	成果と課題	評価		コメント
いきいきと学ぶ学校づくり	確かな学力の向上	「確かな学力向上推進プラン」の実施 改善や補習の実施などによる指導の充実と授業力の向上 基礎・基本的な知識・技能の習得 及び知識や技能を活用する力や問題解決能力の向上	・年3回の研究授業・授業参観週間や研究協議による授業改善 ・各教科指導において、解決型授業展開の実施。主体的・対話的で深い学びの実施 ・基礎基本の定着を図るための演習と復習プリント・問題集・eラーニングの活用	・全教科で学びあい、教えあいの活動を取り入れ、主体的・対話的で深い学びを実践する。 ・授業が分かりやすい、楽しいと思ってくれる率が9割以上 ・eラーニングの活用で演習に自主的に取り組む生徒が7割以上 ・eラーニングを活用したスタディワークを年間3回実施	A	B	・対話的な授業を目指し、実践している。 ・eライブラリを活用したスタディワークの取組を実施し、期間内の生徒活用率は向上した。 ・eライブラリの活用で演習に自主的に取り組む生徒が増加した。	A	・生徒が楽しいと感じられる授業をこれからも継続してほしい。 ・生徒の力で課題解決できる授業の展開と学力低下の生徒に対する補教の充実をお願いしたい。 ・eライブラリの活性化をお願いしたい。	・校内研修や授業参観週間をさらに授業力向上研修とし、見る視点・評価する視点を明確にして、課題解決型の授業力向上を目指す。 ・eライブラリの活性化を目指す。
	体力の向上	・体育の授業での補強運動や休み時間における主体的な運動の実施による運動意欲の向上	・補助運動を毎授業で実施 ・食育、給食指導の充実	・体力が向上した生徒が9割 ・食育を通して食への理解を深めた生徒が9割	A	A	・コロナ禍のため、部活動に制限がある中、工夫しながら体力向上への取組ができていた。食への理解を深めてくれる生徒は9割以上いる。 ・体力テストの結果、体力が向上した生徒が多くなった。	A	・コロナ禍でも、マウス等、工夫しながら取り組んでいた。少しでも体力向上を計られたと思う。 ・運動会では、生徒の躍動した姿が見られた。	・持久走力を入れ、体力向上を目指す。
	読書料の更なる充実	・読書を通じた探究的な学習の充実 （読書ノート）の活用、資料の収集の仕方や記録の取り方の指導、自己の考えをまとめ表現する方法の指導、朝読書と1単位時間の授業との関連付け、他教科との関連等） ・学校図書館の整備、学校図書館を使った授業の充実	・図書館の活用及び読書料における成果物の作成 ・各教科で図書館を利用した学習計画を作成	・読書料における成果物の作成および発表 ・図書館を利用した学習において理解が深まった生徒が8割を目指す	A	B	・図書館司書を導入したことにより本の整理が行き届いている。 ・新刊図書を購入し、生徒のニーズに合った本を揃えることができる。 ・図書館を利用した学習が、まだ各教科できていない現状であり、課題が残る。また授業展開するには、本が不十分であることもある。	B	・読書に親しむ生徒の割合を知りたい。 ・新刊図書をもっと目立つ場所に設置したらどうか。	各学年の読書量を集計し、分るようになる。今年度も定期的に読書量調査を行い、新刊情報を提供することも、委員会新聞を定期的に発行し、読書量改善に努める。 また、教科の中で、図書館を利用する働きかけを行う。
特別支援教育の推進	「学校における働き方改革プラン」	・時間外勤務時間を週45時間以内 ・採点ナビを活用した、採点時間・処理時間の短縮 ・ICT機器を活用した授業準備の短縮	・時間外勤務が週45時間以上の教員には、退勤目標時間を明確にし、早く帰る習慣を学校全体に浸透させる。 ・採点ナビを導入し、お互いに教えあい、使用できる。 ・ICT機器を活用し、教材準備の削減を実現し、各教科で共有する。	・時間外勤務が週45時間以上の教員の人数を0人近くに近づける。 ・採点ナビを使用する教員の割合を100%に近づける。 ・1人1台端末の活用率100%を目指し、教材の共有を図る。	A	A	・時間外勤務が週45時間以上の教員の人数が減ってきている。 ・採点ナビを使用する教員の割合が70%となり、採点時間の短縮ができた。 ・授業中にiPadを使用する生徒の割合が増えた。	A	・時間外勤務が週45時間以上の教員の人数が減ってきていると聞いて、先生方の働き改革の意識の高さを感じる。 ・採点ナビを使用しての採点は、時代を感じる。少しでも先生方の軽減になるのなら、新しい試みを導入してほしい。	・時間外勤務が週45時間以上の教員の人数を0人にする。 ・採点ナビを使用する教員の割合を100%にする。 ・iPadを使用する授業展開を考え、活用していく。
	共生社会の実現に向けた教育の推進	・特別支援委員会の活性化を図ることなどによる指導・支援の充実 ・ユニバーサルデザインの視点を取り入れた個に応じた指導の充実 ・エンカレッジルームの活用促進 ・副籍交流、交流及び共同学習の充実	・特別支援委員会を隔週で開催 ・校内伝達研修会を年2回開催 ・話し合いの中で、ユニバーサルデザインの視点を取り入れた個に応じた指導の仕方 ・エンカレッジルームの効果的な活用	・特別支援を必要とする生徒の不登校ゼロを目指す。	B	B	特別支援委員会を毎週開催し、情報共有ができていた。また、特別支援を必要とする生徒の不登校10人ではないが、減少してきた。	A	・不登校生徒の対応を引き続きお願いしたい。	委員会より提示された生徒の対応の仕方を共有すると共に、研修を深める。不安が確認できない状態になっている生徒に関しては、SSWや関係諸機関と連携して指導にあたる。
学校と家庭、地域、関係機関との連携強化	子どもたちの健全育成の推進	・すべての生徒が安心して過ごせる安全な学校をつくるため、規範意識を育み、いじめや暴力行為、体罰や不適切な言動を抑制する。 ・生徒会による「いじめ撲滅宣言」の掲言	・家庭と連携し、ネット犯罪やネットいじめの防止を図る ・生活習慣のアンケートを年5回実施 ・いじめ撲滅運動の意識を高めるために、各学級でもいじめについて討議	・ネット利用上のルール・マナーを守っている生徒が9割以上 ・生活習慣が整っている生徒が9割以上 ・いじめ撲滅に対する意識が高まる生徒が9割以上	A	A	・家庭内ルールを守っている生徒や生活習慣を整えている生徒が9割以上いる。 ・生活習慣が整っている生徒が9割以上いる。 ・いじめ撲滅に対する意識が9割以上の生徒に浸透している。	A	・いじめのない学校の構築に教員、生徒が協力して取り組んでいると思う。生徒会が取り組んでいるいじめ撲滅宣言が意識向上につながっていると思うので、持続してほしい。	・生徒会が主体的に行っている、SNSルールを校内でさらに深く、モラル意識の向上を目指す。 ・生徒を主体としたいじめ撲滅の取り組みを継続する。
	保護者評価・学校関係者評価の充実	教育活動の改善・充実に向けた保護者評価・学校関係者評価の実施、改善	・学校公開日での参観実施 ・学校行事等の参観実施 ・回答しやすい項目の改善	・生徒の学校目標に対しての取組・意欲等の評価が良いが8割以上 ・回答項目で、分からないという項目が無いようにする。	A	A	・運動会を公開できた。 ・授業参観を4日間公開できた。	A	・学校公開で、生徒の授業態度を見て、感心するほど集中しており、先生方の指導の結果だったと思った。	・学校公開で、プールの授業参観はしないことを事前に連絡する。
特色ある教育の展開	家庭・地域・関係機関との連携	・学校公開、三者面談、保護者会等の実施 ・近隣小学校との連携 ・関係諸機関との連携 ・学校だより・学校HPの活用	・学校公開週間(8/30～9/3)、土曜公開授業年間4回、三者面談2回実施 ・8月に小学6年生対象体験授業・部活動体験実施 ・学校だより月1回の発行 ・学校HP毎週1回更新	・学校公開等、保護者参加8割以上 ・8月に体験授業・部活動体験、小学生の参加9割以上 ・関係諸機関との参観・報告・対応9割以上 ・学校だより月1回の発行実施 ・学校HP毎週1回更新実施	A	B	・学校公開週間(8/30～9/3)、土曜公開授業、三者面談を実施できた。 ・8月に小学6年生対象体験授業・部活動体験を実施できた。 ・学校だよりを月1回発行した。	A	・学校公開に多数の保護者参観があり、教育に関心のある保護者が多く、安心した。 ・学校だよりを、毎月発行していただき、学校の様子が分かる。	・近隣小学校との連携が、コロナのため数年途絶えているので、再開の準備を進めていく。
	主体的・対話的で深い学びの研修・実践	・思考力・判断力・表現力を育成する授業の実践 ・指導法や教材の工夫・改善を図り、基礎学力の定着を目指した授業の実践 ・1人1台端末を使用した授業展開	・教員同士の授業参観・意見交換 ・校内研究授業の実施 ・ICT研修を行い、工夫した授業展開を実施	・年3回の校内研究授業実施 ・年3回「教員同士の授業参観週間」実施 ・ICT研修を年間3回実施	A	A	・iPadを使用した、工夫した授業展開を試みることができた。また、ライブ配信の授業も順調に行っている。 ・ICT研修を実施できた。	A	・コロナ禍でiPadを利用したリモート授業の展開に感謝したい。今後すべての授業がリモートになる可能性があるため、自宅においても生徒たちに分かりやすい授業の展開を先生方で研修を深めてほしい。	今後、コロナ禍で対話的な学びが制限される場合、GIGAスクール構想で1人1台のパソコンを活用した授業展開で、学びあいを強化する。
外国とつながる生徒への支援・国際理解教育の充実	外国とつながる生徒への支援・国際理解教育の充実	・日本語学級設置校としての特色を生かし、日本語教育、英語教育、国際理解教育を充実させ、世界で活躍する人材の育成を目指す。 ・日本語の指導法についての研修を実施し、日本語や日本文化、教科の指導を継続的に行う。	・ルビ振り、電子辞書の活用等の合理的な配慮の実施 ・進路説明会や面談、在籍校訪問等による在籍校との連携	・進路説明会、面談、在籍校訪問の実施	A	A	・日本語指導員や日本語学級指導、進路指導など丁寧に行っている。 ・日本語学級において、リモート授業も試みている。	A	・オリンピック等を通じ、他国の歴史や言語などの理解を深めてほしい。 ・日本語学級を含め、外国の生徒の割合が多いので、大変だとは思いますが、丁寧な指導をお願いしたい。	外国につながる生徒が多いので、個に応じた指導を継続する。